

国内人材国際化分科会 2013年度総括

分科会 主査 山下清信

原子力人材育成統括アドバイザー
原子力機構 原子力人材育成センター

報告内容

- 目的
- 活動の概要
- 今後の活動

ネットワークの体制

(ネットワーク活動の基本方針の決定)

運営委員会

事務局
(JAEA&JAIF)

(ネットワーク活動全体の企画、検討、評価)

企画
ワーキンググループ

(運営委員会、WGの事務局、事務局事業・活動の運営、遂行)

(分科会: 機関横断的事業・活動の提案、検討)

1. 初等中等教育分科会(JAIF)

2. 高等教育分科会(大学、JAEA)

3. 実務段階の人材育成分科会
(JAIF)

4. 国内人材国際化分科会(JAEA)

5. 海外人材育成分科会(JICC)

()内は事務局担当機関

分科会の目的

背景

- (1) 福島第一原子力発電所事故からの教訓を共有し、世界の原子力施設の安全確保に貢献することは我が国の責務である。このために、国際機関における安全基準の策定活動に積極的に参画し牽引することが日本に期待される
- (2) 今回の事故後、脱原子力を表明した国がある一方で、新規原子力発電導入計画を維持する国がほとんどであり、それらの国から日本への期待は変わらず高い

これらの期待に対応するため、国内人材の国際化が必要

分科会の活動

- (1) コミュニケーション能力の向上のための事業の推進
- (2) 国際機関、国際ネットワークとの相互交流推進

分科会の開催

メンバー

官庁関係	3名
電力、メーカー、産業界	7名
大学関係	3名
研究機関	4名



分科会会議状況(原子力機構東京事務所)

分科会の開催

●国内人材の国際化分科会（3回開催）

第1回：活動計画、第2回IAEA原子力マネジメントスクール準備

第2回：原子力機構の「人材国際化コース」の準備

若エネ研 国際原子力人材育成コース準備

第3回：上記コースの実施報告・評価

国内人材国際化分科会における課題

「国際原子力人材」の具体的指標の検討

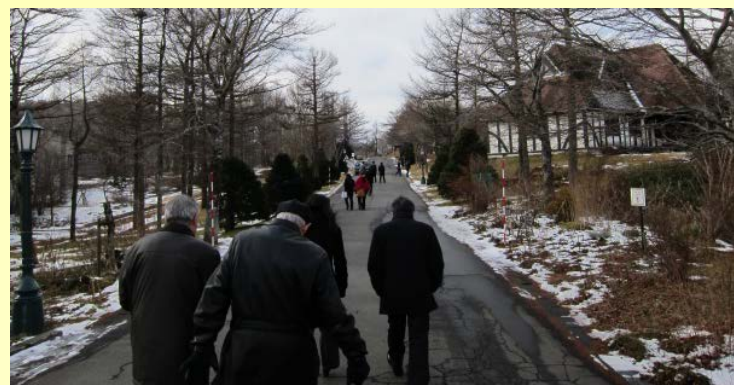
第3回Japan-IAEA Joint 原子力マネジメントスクール準備状況⁵

(1)コミュニケーション能力の向上のための事業(1/3)

①原子力機構の「原子力国際人材養成コース」

将来の原子力関係組織の管理者となることが期待される若手が我が国及び世界の原子力のあるべき姿を英語で表現できるようにすることを目的とした。

電力事業者、プラントメーカー、研究機関等の方々16名の参加



コミュニケーション能力の向上のための事業の推進(2/3)

②世界原子力大学夏季研修

原産協会が、「国際視野を身につけた原子力人材育成」を目的とした向井坊隆記念事業の一つとして、日本からの参加を支援し国内人材の国際化に貢献

2013年世界原子力大学夏季研修には

- 24カ国から72名の若者が参加
- 日本人参加者は6名(うち原産協会支援者は4名)
(2005年開始後、日本から31名の参加)



英国 オックスフォード大学内「で開催

③若狭湾エネルギー研究センターの「国際原子力人材育成コース」

トルコ、サウジ、ベトナム、米国等の大使館のエネルギーに関連する方々による講演を開催し、国際的共通課題について知見を有する人材育成を目的とする。

第2回 IAEA原子力エネルギーマネージメントスクール開講式



(開催期間) 5月27日から6月10日まで 約2週間

(開催場所) 東京大学および東海村

(IAEA) 足立文緒氏、Venkatesh物理化学部長、Y. Yanev氏が参加

(日本) 近藤原子力委員会委員長、経産省と文科省(審議官)

(日本側ホスト) ネットワーク、原子力機構、東大及び原産

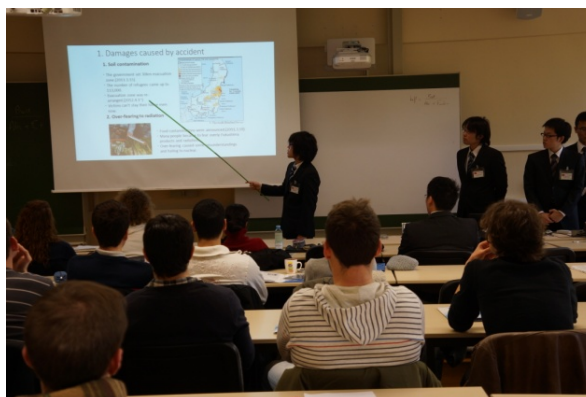
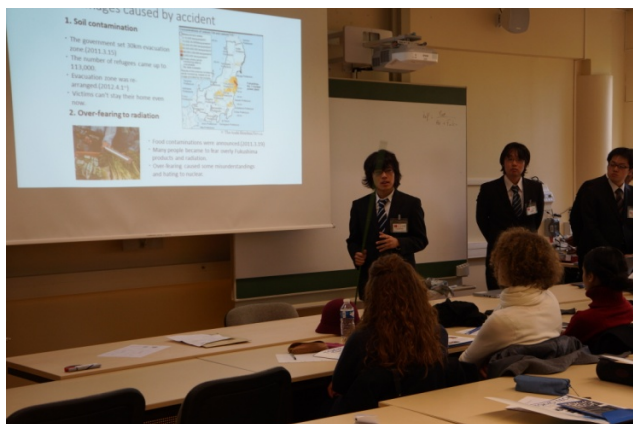
コミュニケーション能力の向上のための事業の推進(3/3)

⑤世界各国からの留学生との交流による日本人学生の国際化

国際的な人材になるためには英語を話せることも大切だが、外国人に直接し、その人たちの習慣・文化を知り、ともにまなぶことが大切、



長岡技科大では、約30カ国から約300名が在籍、全学生の約13%が留学生とのこと、このような環境は日本人学生が自然に国際感覚を得るのに役立つ



東工大原子核工学専攻の留学生の数は平成25年10月現在で、修士57名中13名、博士32名中16名です。

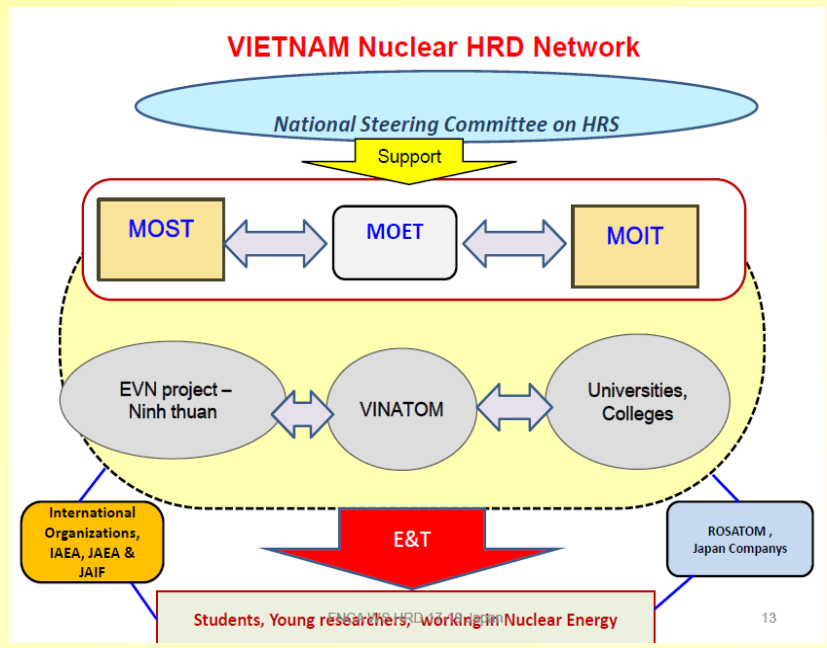
活動 (2)国際機関、国際ネットワークとの相互交流の推進

(1) ヨーロッパ原子力教育ネットワーク (ENEN)

東工大、京大及び原子力機構が、フランスのINSTN大学院 (National Institute for Nuclear Science and Technology)と留学に関する協定を結び、原子力を学ぶ学生の国際化に貢献

(2) アジアにおける原子力人材育成ネットワーク

アジア原子力協力
フォーラム (FNCA)
では、参加各国(11カ
国)に原子力人材育成
ネットワークの提案及び
活動の推進



ベトナムの原子力人材育成ネットワークの例

「国際原子力人材」の具体的指標の検討

国内の原子力技術者・研究者の国際化が以前より要望されている。
その「国際原子力人材」の国際化度を量る尺度として共通認識を持てる指標の設定を検討している。

<基本コンセプト>

- ・原子力分野で要求される専門知識については、本指標設定には含めない。
- ・指標は、自己啓発、今後の国際研修コース等の応募対象者の要件、グループ目標値やグループ間での国際化度の比較等に利用できる、共通認識を持てるものを検討する。

指標設定のための各尺度の配分

尺度	配分
スキル1: エネルギーをとりまく状況及び一般技術に関する知識	30%
スキル2: 英語力	25%
スキル3: 我が国についての知識及び異文化対応力	20%
国際経験	25%

上記の尺度に対し、世界の中での日本を意識できているかを確認する問題もしくは経験等を問う設問を作成し、TOEIC/TOEFL/英検等の結果と合わせ、指標を設定する。

今後の活動

- (1) 福島第一原子力発電所事故から得られた教訓を世界と共有し、国際機関における安全基準の策定活動に積極的に参画し牽引することが日本に期待されている
- (2) 今回の事故後も、新規原子力発電導入計画を維持する国がほとんどであり、それらの国から日本への期待は変わらず高い

これらの期待に対応するため、IAEA 原子力エネルギーマネジメントスクール等を実施し、国内人材国際化活動を遂行した。

今後これら活動を継続し、とりまく状況を踏まえ活動の充実・拡大を図る

分科会の活動

- (1) コミュニケーション能力の向上のための事業の推進
- (2) 国際機関、国際ネットワークとの相互交流推進
を、継続して進める